

【6日目】 1/23

いよいよ現地での最終日、この日はカンボン・ピジットを行いました。カンボンとはマレー語で村のことで、都会的ではない村を訪れる文化体験のことを指します。まずは、村の集会所に案内されて、現地の音楽での歓迎を受け、記念写真撮影をしました。現地高校を訪れたときも音楽での歓迎を受けましたが、いろいろな形の太鼓のような楽器で歓迎していただいて、気持ちが高揚しました。



歓迎会の後は、プランテーション体験をしました。天然ゴムを木から採取したり、ヤシ油を採る様子を見せていただいたり、コーヒーの豆からどうやって私たちが飲むコーヒーができるのかを見学したりしました。



その後、バスで現地のご家庭に1校から2校ずつ伺いました。私たちの行ったお宅には、ホストマザーとたくさんのお孫さんたちがいて、リビングで一緒に遊んだり、ホストマザーの料理（蒸しパンのようなもの、揚げバナナ、ドラゴンフルーツ、ヤシの実ジュース）をいただきました。マレーシアでいただくお料理はバラエティに富んでいますが、現地のお家でいただくお料理は初めてで、手作りのものもありとても美味しかったです。伝統衣装も親切に着せていただき、「ホームステイで泊まりたかった」という声も上がりました。家の中にはコーランも置いてあり、時間になるとアザーン（お祈りを呼び掛ける声）も聞こえます。違う文化のお家にいるんだなということを実感すると同時に、温かく迎え入れてもらうことの喜びや、大切にしてもらえたことへの感謝も感じました。





村を出た後は、最後の文化施設「プトラ・モスク」を訪問しました。ここは通称ピンクモスクと呼ばれており、ピンクのタイルや石が美しいモスクです。マレーシアの首都はクアラルンプールですが、行政施設は 1990 年半ばから行政施設をプトラジャヤという都市に移設し、その際に建設された新しいモスクです。この日はあまり時間がなく、ゆっくりと施設を見てまわることはできませんでしたが、プトラジャヤは水に囲まれた近代的な都市で、またゆっくり見てまわりたいと思いました。



最後に市場訪問を兼ねて食事を採り、夜 22:50 の便で日本へと帰りました。長いようであつという間の 7 日間も全ての行程を終えました。ここまで、さまざまな事前研修を行い、実際に現地に行ってみて、より多くの学びが得られた充実した 7 日間になったと思います。東京都で用意された海外派遣研修にはさまざまなコースがありましたが、このマレーシアコースは年度の終わりの方に予定されていました。そのため、モチベーションをいかに維持するかということが大変だろう、頑張ってくださいね、と東京都の方からはお話をいただいていたのですが、長い長い事前研修の期間に本当にいろいろなことを学び、考え、現地に行くことができました。長い事前研修の期間があったからこそ現地での体験が大きな学びにつながった部分も多くあると思います。支えてくださった東京都の皆さま、学校の皆さま、保護者の皆さまなど、全ての関わってくださった皆さまに感謝しています。生徒たちはこの経験を糧に、きっと世界に羽ばたいていってくれると思います。

これで研修の様子のご報告は終わりますが、また後日、生徒たちの感想をアップロードしますのでぜひお読みください。